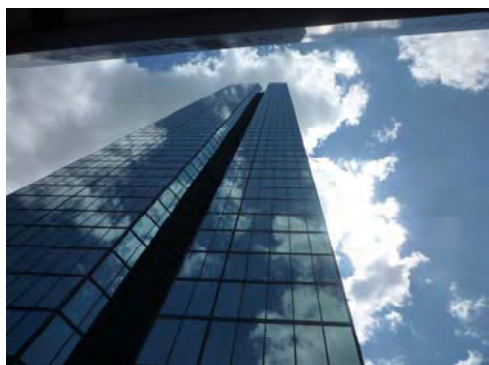


姉妹都市メドフォード市・延岡市高校生交換プログラム レポート



延岡工業高校 3年 矢野雅也

全体の日程

○7月27日

ボストン空港 到着 PM20:45

最初のホストファミリー ウィリアム・ダーニー家へ

○7月28日～8月3日

ダーニー家にホームステイ

・7月29日 タフツ大学見学

・7月30日 Duck Tour

・8月3日 メドフォード市長訪問

同日 アサヒアメリカ訪問・野球観戦

○8月4日～8月6日

ジャック・ヘーズ家へホームステイ

・8月5日 ロータリークラブ定例参加

同日 野球観戦

○8月6日～8月7日

トニー・ギアンベラリディ家へホームステイ

○8月7日

パットとエレイン・テベルジュ家にホームステイ

○8月8日

空港へ向かい、帰国

7月27日～7月28日



初日は空港到着が夜の9時前。ダーニー一家に到着すると、簡単な挨拶を交わした後、部屋に案内されそのまま就寝。長い移動の旅で疲れていたのか、すぐに眠りについてしまいました。

次の日はダーニー一家のお母さんとウィリアムがメドフォード市のツアーを開催してくれました。まずはすぐ近くのミスティックリバーバンド公園へ。メドフォードで初めて風車が設置された場所らしく、大きな風車がぐるぐると回っていました。

この後はアメリカの歴史を学ぶべく、メドフォードスクエアを抜け、たくさんのミスティックリバーを越え、いくつかの銅像巡りをしました。歴史が好きなお母さんが、一つ一つの銅像について詳しく説明してくれました。

そして、銅像巡りが終わると、次は **DeCodova Museum** へ。タイヤで作られたオブジェや様々な写真が展示されていました。日本とは違うアメリカの感性を感じる、貴重な体験でした。



7月29日

この日は朝からメドフォード高校へ。私の通う延岡工業は、宮崎の中でもかなりの広さを誇る学校ですが、この学校の広さには本当に驚きでした！歩いて歩いても終わりが見えませんでした！廊下の壁には美術部の生徒の絵が至る所に描かれており、その絵からも日本の学生との感性の違いが感じ取れました。



お昼からは、タフツ大学の見学へ行きました。この日は地域の方も招いた学校紹介が行われており、大学の学生さんが私たちをガイドしてくれました。しかし学生さんの言葉はとても早く、私にはとても聞き取ることは出来ませんでした。さらにこの大学の広さもかなりのもので、またも驚かされました。このような中で気づいたことは、この大学には様々な国から人が集まっているということ、そしてそれが当然のように皆が触れ合っているということです。国や人種を超えた交流がここには広がっていました。そして夜。

「アメリカは何でも大きいね」 この夜に食べた巨大ハンバーガーを前にそうつぶやくと、家族みんなが大笑いしてくれました。

7月30日



ダッグツアーに参加しました。最初はボストンの街をバスで観光。高層ビルや古い教会がたくさん建ち並んでいました。そして街には祭りが行われているかのような人の数！終始辺りを見渡していました。

ここで気付いたことは、ボストンの建物のつくりの特徴。日本では建物と建物間に空間を作ることが多いですが、ボストンでは隣同士にくっついているものが多かったです。色んなお店が横並びに続いていました。

後半はダッグツアーのメインイベント、川での水上ツアーです。さっきまで道路を走っていたバスが船に早変わり！川から見るボストンはまた違って見えました。

お昼は日本食を食べに行きました。とはいえ、アメリカンジャパニーズフード。とても日本食には程遠い見た目と味でした。ウィリアムいわく、アメリカはたくさんの文化を取り入れるけど、すべてがアメリカ風になってしまうそうです。



そしてこの日の夜は、ウィリアムの運転でサラと友達、一緒に参加した廣木さんとでボウリングに行きました。ボウリングは苦手なので勝てるか不安でしたが、当然、最下位でした！残念でしたが、とても充実した楽しい一日となりました。

7月31日～8月1日



7月31日は海へ行きました。大西洋です。日本からは決して見ることの出来ない景色にとっても感動しました。そしてその後はWOODMAN'S というシーフードが有名なお店へ。そこでフライド料理を注文しました。そして驚いたのはその量！一皿目が運ばれてきたとき、これを家族みんなで食べるのかと思ったら、一人一皿でした……。とても食べきれず、半分以上残してしまいました……。アメリカの食文化を知った一日でした。

8月1日はプルデンシャルタワーへ。52階建ての高層ビルで、50階が展望台になっており、そこからボストンの街を見下ろすことができました。すぐ近くを飛行船が飛んでいたりと、フェンウェイパークが見えたりと、とても楽しかったです。

この帰りにお母さんが「日本に帰ったら家族にボストンについて説明してあげなさい」と、ボストンのガイドブックをお土産に買ってくれました。これは私の大切な宝物になりました。この後はボストンの遊歩道をみんなで散歩。ここでも今までいろいろな功績を残してきた人物の銅像巡りをして、たくさんの写真を撮りました。

一旦家に帰り、一休みすると次はハーバード大学へ連れて行ってってくれました。今回一番楽しみにしていたので、いろいろと見て回りたかったのですが、次の予定があるということで早々と大学を後にしました。しかしその中でも、様々な国の言葉が行き交うのが聞こえ、大学の中で様々な国際交流が行われているということを感じる事が出来ました。



8月2日～8月3日

8月2日は連日の観光でみんな疲れてしまっていたので、家の周りで過ごすことにしました。朝は「本当のアメリカの朝食を食べさせてあげる」と、お母さんがファミリーレストランへ連れて行ってくれました。朝からパンケーキを3枚……。さすがアメリカです。

ここでひとつわかったことは、アメリカのマナーについてです。隣に座っていた若い女の人が、食事を終えた後に携帯電話で話し始めました。日本でもよく見られる光景ですが、それを見たお母さんはとても嫌そうな顔をしました。そして「こんな公共の場で携帯電話を使うなんて本当に信じられないわ。」と言っていました。日本でもそうですが、やはり人前で携帯電話を使うということはマナー違反のようです。

家に帰ってからは一日ゆったりと過ごし、夕方にはウィリアムの卒業アルバムや学園祭のDVDなどを見せてもらいました。アメリカの学生は日本の学生よりも勢いが凄いな、と感じました。



次の日はメドフォードの市長さんの元を訪問しました。そこではリサイクルの話や、昔メドフォードから旅立った船の話、延岡との友好の歴史などを聞きました。最初は緊張していて、なかなか話を聞き取ることが出来なかったのですが、市長さんが気さくに話しかけてくださったのでその緊張も解け、リラックスすることが出来ました。記念にTシャツと帽子を頂き、皆で写真を撮りました。

文化やマナー、歴史など多くを学んだ一日になりました。



8月4日～8月5日

この日でダーニー家とはお別れでした。最後の日のパーティでまた会うことを約束し、次のホストファミリー、ジャック・ヘーズ家へ。5人と一匹のにぎやかな家族です。この日はまず海へ行きました。出会ったばかりで最初はなかなか馴染むことが出来ませんでした。お兄ちゃんのパトリックが「一緒に遊ぼう！」と言ってからはずんなりと家族に溶け込むことが出来ました。家に帰ってからもパトリックと夜遅くまでゲームをしたり、話をしたり楽しく過ごしました。

次の日の朝はお母さんと一緒に近くのショッピングモールに買い物に行きました。今まで全くお土産を買っていなかったの、ここでいくつか買い揃えました。最初にアメリカに来たときは買い物をするのも緊張しましたが、ここまで来るともう慣れたものでした。そして午後からは二度目の野球観戦に行きました。一度目では見られなかった松坂投手を生で見ることが出来ました。私は野球についてあまり知らないのですが、ただそれだけで楽しむことが出来ました。家に帰ってからは日本からのお土産を渡し、皆で楽しく過ごしました。



8月6日

この日でヘーズ家ともお別れをし、次のホストファミリーのトニー・ギアンベラリディ家へホームステイ。

ニューハンプシャー州のウィニスカム湖にある別荘へ向かいました。そこで船に乗せてもらい、湖を猛スピードで駆け巡りました。風が冷たく、とても気持ち良かったです。それからトニーさんにビリヤードのやり方を教えてもらい、しばらくビリヤードで遊びました。その後にもた船に乗ってロブスターを買いに出かけました。ロブスターは驚くほどの大きさに、私の頭より大きなものばかりでした。そしてまたその味に驚きました！私は海老や蟹などが苦手なのですが、ロブスターはとってもおいしくあれほどの大きさのものを一気に平らげてしまいました。

そして夜には私と廣木さん、ギアンベラリディ夫婦の四人でビリヤード対決をしました。先日のボウリングでは散々な結果でしたが、今回はお母さんの助けがあって見事勝利することができました！



8月7日～8月8日

この日は湖の水温が上がるのを待ってから、チュービングを楽しみました。最初は緩やかなスピードで引っ張ってくれていたのですが、後半はかなりのスピードで引っ張られ、3度も転落してしまいました。ですがあのスリリングさがとても楽しかったです。

午後からはお別れパーティが開かれるということで、パットさんとエレイン・テベルジュさんの家へ向かいました。そこには最初にお世話になったダーニー家の皆さんも集まっており、久々の再会となりました。この日がアメリカで過ごす最後の日ということで、私と廣木さんは甚平・浴衣にそれぞれ着替え、パーティに参加しました。パーティではこれまでの思い出話や、日本に帰ってからのことなど様々なことで話が広がりました。そしてパーティが終わりを迎え始めると、皆で写真を撮り、最後の別れの挨拶を交わしました。ダーニー家の皆さんが「またアメリカに戻っておいで」と言ってくださったのが本当にうれしかったです。こうしてパーティも終わり、残すは帰国するのみとなりました。



最終日

とうとう最終日を迎えました。夜中の二時には起き、眠いと感じる間もなく空港へ向かう準備をしました。かばんに荷物を詰めながら、これまでのことを振り返ると、本当に有意義な日々で、あっという間だったと感じました。まだもう少し、ここに残って色々なことを見聞きしたいとまで思いました。それほどアメリカで過ごした日々は素晴らしかったです。

そして時間を迎え、空港へ向かうと、後はただひたすらに日本を目指し飛行機を乗り継ぐだけでした。

本当に学ぶものの多い日々でした。



全体を通して

今回の経験を通して、私は様々なことを学ぶことができました。特に日本や他の国とは違うアメリカの文化について深く学ぶ事ができました。小さな点をあげますと、アメリカは「ありがとう」の国だということが分かったことです。「扉を開けてくれてありがとう」「食事の準備をしてくれてありがとう」どんなに小さなことでも親切にしてくれたら「Thank you」の一言を忘れないのです。今の日本には足りないその心が、アメリカには広がっていました。大きな点を上げますと、国々の格差について考えさせられました。私は去年の夏に赤十字の派遣事業に参加し、カンボジアを訪れました。その際に私はカンボジアの本当の姿や、カンボジアが抱えている問題などについて学ぶことができました。カンボジアでは今、先進国に追いつこうと必死の発展を続けています。その甲斐もあって今では日本の大都市を思わせるような高層ビルが建ち並ぶ街並みを見ることが出来るようになってきました。しかし、一歩その街並みを抜ければ、未だに今日を生きる食料に困っている人々も多くいるという現状も残っています。その一方で、アメリカではこのカンボジアとは全く逆の環境が広がっているのです。物が溢れ、飲食店で注文をすればとても食べきれない料理が運ばれてきます。カンボジアが枯渇の現状にあるとすれば、アメリカには飽和な現状が広がっているのです。

このような二つの相対する国を目の当たりにした私は、日本の宮崎県延岡市という地域に住み、生活していることの素晴らしさを改めて実感しました。そして、世界に広がるこのような格差を無くしていくことが、これからの世代を担う私たちの課題だと感じました。

Fin.